

会長要望セッション | 純型肺動脈閉鎖症

会長要望セッション01 (I-YB01)

純型肺動脈閉鎖症に対する内科的・外科的治療戦略

座長:芳村 直樹 (富山大学医学部 第1外科)

座長:星野 健司 (埼玉県立小児医療センター 循環器科)

Sun. Nov 22, 2020 3:30 PM - 5:00 PM Track3

[I-YB01-6]純型肺動脈閉鎖症に対する Fontan術後成績

○小田 晋一郎, 中野 俊秀, 安東 勇介, 合田 真海, 岡本 卓也, 緒方 裕樹, 酒井 大樹, 野村 竜也, 角 秀秋 (福岡市立こども病院 心臓血管外科)

Keywords:PAIVS, Fontan, 遠隔成績

【目的】純型肺動脈閉鎖(PA-IVS)患者の Fontan術後成績を検討した。【対象と方法】1983-2019年まで PA-IVSに対する単心室手術の76例(67%)を対象とした(その他術式二心室手術(n=31, 27%), 1+1/2心室手術(n=7, 6%)。単心室群のグレン手術前三尖弁輪 z-scoreは -2.9 ± 1.8 であった。Fontan手術時年齢中央値(IQR)は3.4(2.7-4.5)歳, 体重は12(11.3-13.5)kgであった。三尖弁閉鎖(\pm fenestration)による RV exclusionは22%であった。右室依存性冠動脈は19%であった。主な投薬内訳はワーファリン99%, アスピリン92%, ACE-I/ARB 92%, β ブロッカー27%であった。術後観察期間は10.3(3.5-13.9)年であった。【結果】全例生存し, Fontan循環破綻も認めなかった。BNP値は $8.1(5.8-20.4)$ pg/mlであった。術後カテーテル検査では IVC圧: $9(8-10)$ mmHg, LVEDP: $6(4-8)$ mmHg, LVEF: $60.7(56-65.5)\%$, SaO₂: $95(94-95.8)\%$ であった。心エコー検査による TR-PGは RV exclusionの有無で $12(1.4-48.6)$ vs $83.8(56.3-124)$ mmHg ($p=.008$)であった。運動負荷心電図検査では max HR% N: $94.0 \pm 12.9\%$, max VO₂% N: $81.9 \pm 17.3\%$ であった。術後続発症は不整脈3例, 脳梗塞1例, 脳出血1例, 卵巣出血1例に認めた。肝エコー検査による肝辺縁鈍, 実質粗造, 表面不整はそれぞれ55%, 18%, 2%であった。【結論】術後抗凝固と心血管保護療法を積極的に実践した PA-IVSの Fontan術後成績は良好であった。RV exclusionは右室の減圧に有用であった。肝障害についてはさらなる遠隔期の検討が必須である。